

【44】大田市大森町昭和 井戸神社（宮本 なし/ロータリー46） **井戸神社**

所在地 大田市大森町昭和

北緯35° 07' 11.90" / 東経132° 26' 53.09" (国土地理院)



扁額は勝海舟書



【建立年】大正5年（1916）
 【建立者】井戸神社興復会

〔調査の経過〕
 井戸神社は元は現在の場所の北側、川村氏宅の隣（現井戸さん広場の場所）に、大森町戸長、川北徹蔵や町の有力者松原小兵衛らが発起人となり、有志から浄財を募って、明治12年に創立された。まだ無格社だったが、5月26日の鎮祭は出雲大社の千家尊福宮司が斎主となつて執り行われた。

明治23年から、神社の一部を削る形で国道が建設されたため、境内が非常に狭い状態になった。

井戸公に従四位が贈られた翌年の明治44年、衆議院議員、恒松隆慶が興復会長に就任して精力的に寄付金を募集し、同年6月に地鎮祭を行い、大正5年4月に現在の場所に完成、遷座奉祝祭を行った。

大正7年5月7日には県社に昇格。現在でも毎年5月と11月の2回、例大祭が行われている。

境内には「井戸公顕彰碑」「恒松君頌功碑」「松浦屋与兵衛之碑」があるほか、次の通り多くの灯籠が奉納されている。明治12年 安井好尚 嶋根県巡查数名 / 大正6年 岸本房太郎 / 昭和55年 恒松隆慶（幸）

扁額は勝海舟が書いたもの。これは明治時代に貴族院議員だった物部神社の金子有郷宮司が依頼したとも、産業、教育に功績があり、初代の井戸神社創建にも尽力した仁摩町大国の安井好尚の働きかけだったとも言われる。昭和57年の没後250年祭に金森丈兵がコンクリート製の鳥居を奉納した際に外され、石見銀山資料館で保管。現在はレプリカを掲示している。

鳥居は2018年4月の島根県西部地震で傷んだため、2年後の令和2年、時の総代松葉大吉らによって京都産の檜で再建された。

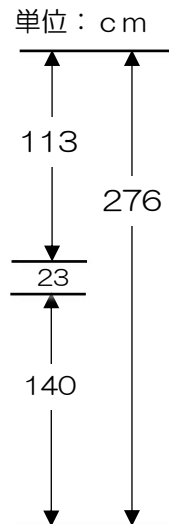
（調査日2020年5月22日）



【45】大田市大森町昭和 井戸神社 (宮本 大 43/口-列-48) **井戸公顕彰碑**

所在地 大田市大森町昭和 井戸神社境内

北緯 35° 07' 11.94" / 東経 132° 26' 52.23" (国土地理院)



碑石 最大幅 149 / 奥行き 5
 台石 最大幅 237 / 奥行最大 141

【建立年】昭和 57 年 (1982)
 【建立者】わかさの会

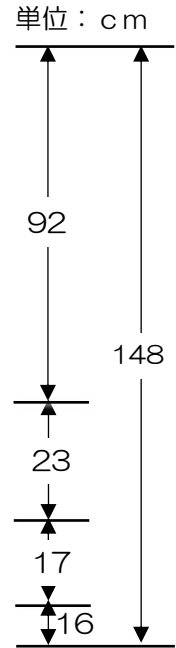
「碑石前面」井戸公顕彰碑 / 時は徳川の中期將軍吉宗の頃 / 當時全国をおそった享保の大飢 / 饑に石見銀山領二十万人民の / 窮乏はその極に達し正に餓死の / 一步寸前をさまよつてゐたが時の / 大森代官井戸平左衛門正明公は / 食料対策百年の計をたてこの地方 / に初めて甘藷を移入その栽培奨励 / に力を注ぎ一方義金の募集公租の / 減免を断行遂には独断で幕府 / 直轄の米倉を開くなど非常措置 / により一人の餓死者も出さなかつたといふ / この深い慈愛と至誠責任を貫い / た偉大なる善政は千古に輝き今 / も尚いも代官様と敬慕して / 公のみたまをこの地に祀りその遺徳 / を永く顕彰してゐる

「台石前面」恩は石に刻め / 井戸公は私したち先祖の / いのちを救ふて頂いた恩人 / である。 / 私したちの先祖があの時餓 / 死してゐたら子孫はない。 / 先祖も子孫も共に救ふて / 下さった大恩人である。 : : と / 感知せしめられたとき / 報恩感謝の心が脉々 / とふきあがる。 / この聖き発想で恩は石に刻む / の至純な心で石ぶみを建て / 井戸公のみたまにささげ / たて / まつる。 / 二百五十年祭記念 / わかさの会

「調査の経過」
 井戸神社総代だった故川村政経氏によると、わかさの会は川本町の団体で、台石は戦前まで神馬が乗っていた台で、供出してなくなつたため、そこにこの石碑が建てられたという。
 境内にはほかに恒松隆慶の「恒松君頌功碑」と「松浦屋与兵衛之碑」がある。
 (調査日 2020 年 5 月 22 日)



所在地 大田市大森町上佐摩上 尾川嘉輝氏宅左手の高手
 北緯 35° 06' 40.25" / 東経 132° 27' 13.74"



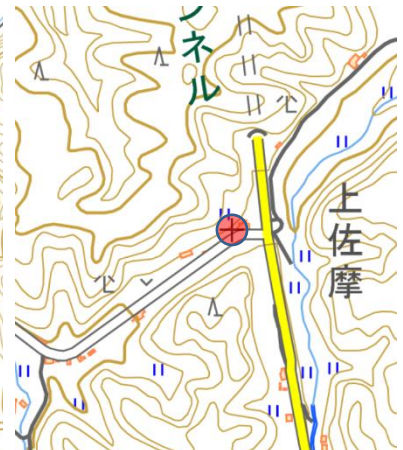
碑石 幅30/奥行24
 台石1段目 幅45/奥行51
 台石2段目 幅69/奥行75
 台石3段目 幅82/奥行88(コンクリート製)

【建立年】安政3年(1856)
 【建立者】上組中

【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】安政三丙辰年九月造之
 井戸平左衛門正明
 【碑石左面】享保十八癸丑年/五月廿六日

【一段目台石前面】石工/常七
 【二段目台石右面】上組中
 【一段目台石裏面】百姓代/柳助/頭
 百姓/市平/庄屋/逢助

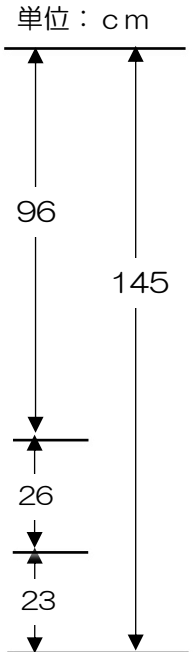
【調査の経過】
 大森町の町並みの外れの、新しい県道に出る手前の高手にある。大森町内で地域住民が建てた頌徳碑としては唯一のもの。
 3段目の台石が崩れて碑全体が傾いていたが、平成22年に上佐摩自治会によってコンクリート製の台石が作られた。その時と思われるが、台石の角度が90度変わり、正面にあるはずの「上組中」の文字が右側になっている。台石2段目、3段目も幅より奥行きが長いので、元は碑石が右を向いていたのかも。
 碑の周囲は比較的きれいで、道路から上がる石段もブロックで作られ、前には線香置き、塩ビパイプ製の花立てもあり、地域の人が大切にしている様子がうかがえる。
 (調査日2020年5月22日)



【47】大田市水上町白坏高津上 肥田氏宅裏 (宮本 大46/□-列-52) 泰雲院殿義……土位

所在地 大田市水上町白坏高津上三差路前 肥田氏宅裏

北緯 35° 04' 49.00" / 東経 132° 27' 34.50" (国土地理院)

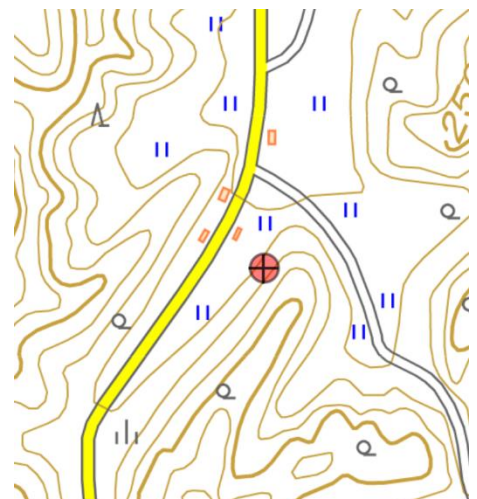
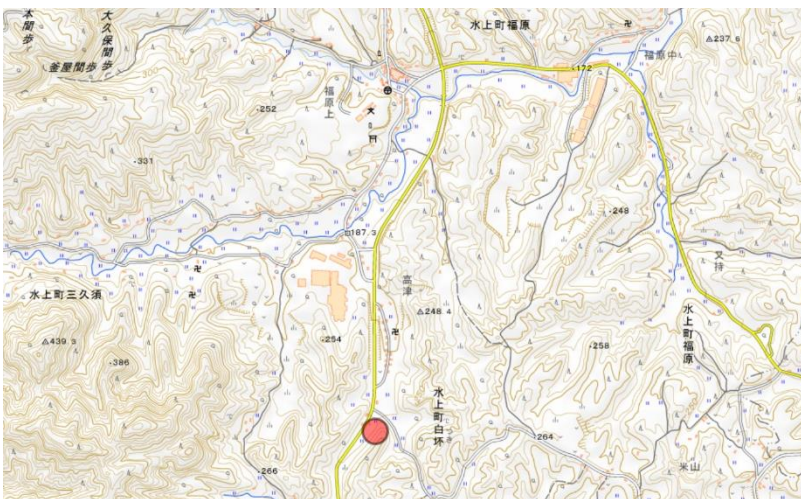


碑石 幅 32 / 奥行き 32
 台石1段目 幅 56 / 奥行 45
 台石2段目 幅 82 / 奥行 78

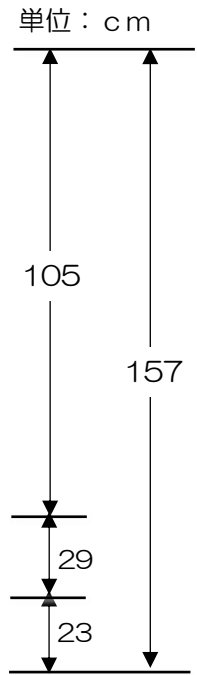
(情報は宮本調査、写真は中田俊光氏が平成初期に撮影分を使用)

〔調査の経過〕
 左隣に別の碑も2基建っているが、民有地のため無断で入ることができず、草に覆われていて、手前に小川もあるため調査を断念し、宮本調査台帳の情報を使った。写真は水上町の中田俊光氏が平成の初めごろに撮影された写真を使わせていただいた。
 2020年現在、碑は存在しているが、遠望すると碑石の前面の文字が読めなくなっているように見える。

- 【建立年】不明
- 【建立者】當村中
- 【碑石前面】泰雲院殿……土位
- 【碑石右面】享保十八年癸丑年/五月廿六日
- 【碑石左面】大森前御代官井戸平左衛門正明
- 【台石】施主/當村中/惣百姓/百姓代/三九郎/頭百姓/助十郎/庄屋/文左衛門



所在地 大田市水上町三久須 森山商店横 武間氏宅向いの高手
 北緯 35° 05' 18.33" / 東経 132° 27' 29.99"

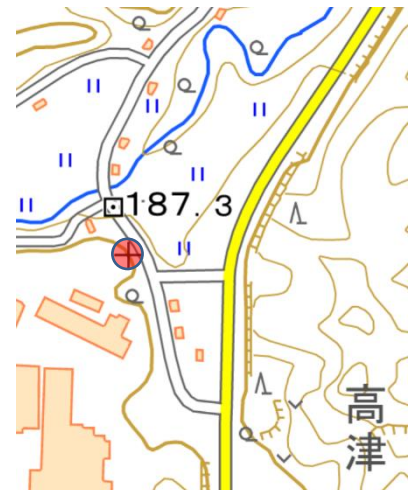


碑石 幅 35 / 奥行き 25
 台石 1 段目 幅 59 / 奥行 50
 台石 2 段目 幅 85 / 奥行 76

(調査日 2020年5月22日)

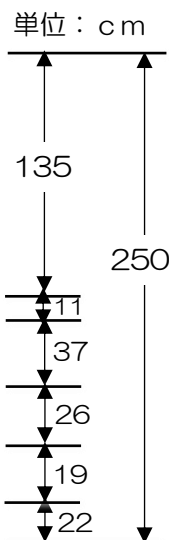
「調査の経過」
 旧県道の公民館近く、森山商店横の高手に陸軍兵士の碑と並んで立つ。周囲はツツジが植えられていて公園のようになっていた。2012年の調査では「良忠」も判読できたが、今回は剥落して読めなくなっている。特に碑石の傷みが激しく、傷み方が大代町の石碑の傷み方と似ている。碑石に比べて台石の傷みは少なく文字がしっかりと読めた。

- 【建立年】嘉永7年(1854)
- 【建立者】三久須中
- 【碑石前面】泰雲院殿義岳良□□居士
- 【碑石右面】享保十八年癸丑年/五月廿六日逝去
- 【碑石左面】御代官/井戸平左衛門正朋
- 【一段目台石前面】(上部に横書きで)施主三久須中(その下に縦書き)嘉永七甲寅/十月建之/庄屋義助/見習辰二良/頭百姓三右エ門/惣百姓中
- 【一段目台石左面】石工/伊助



【49】大田市水上町福原下 元中島商店横 (宮本 大47/ロータリ-51) **井明府之碑**

所在地 大田市水上町福原下 元中島商店横 市道川合水上線沿いの地藏堂の上の平地
 北緯35°05'45.77" / 東経132°28'12.87"



碑石 幅47/奥行30
 台石1段目 幅63/奥行45
 台石2段目 幅88/奥行71
 台石3段目 幅117/奥行88
 台石4段目 幅152/奥行不明 (斜面崩れ)
 台石5段目 幅215/奥行不明 (斜面崩れ)

(調査日2020年5月15日)

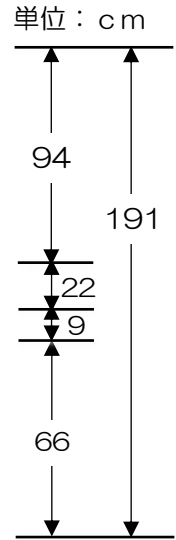
「調査の経過」
 市道の脇に地藏堂があり、そこから斜面を上がると平地があって、この石碑だけが立っている。中田氏によると、この場所は神社があった場所で、昭和20年代に、昭和陶業の古藤社長が道路沿いにあった碑を上に移設したという。台石を5段も積み、3段目は猫足になっている。大きな碑で碑石の文字も深く、大きい。「明」の文字に異字体が使われている。
 享保18年の干支が違っている。辛亥は井戸公着任の16年の干支。
 温泉津町西田の水上神社にある石碑(安政2年)とほとんど同じデザインだ。両方とも石工の名がないが、同じ石工が彫ったと思われる。

【建立年】安政5年(1858)
 【建立者】當村中
 【碑石前面】井明府之碑
 【碑石右面】享保十八年辛亥五月廿六日
 【碑石左面】安政五年戊午八月建之
 【三段目台石前面】當村中
 【三段目台石右面】百姓代/泰助/庄屋
 見習/健十郎/庄屋/吉太郎
 【三段目台石左面】五人組頭/林四郎/直助/仙平/惣四郎/梅二郎/順助/好太郎/元口/亀藏/茂七/興六/勇助/柳兵衛/郡平



【50】大田市水上町荻原 元本宗寺跡 (宮本 大 48/□-列-53) **泰雲院義岳良忠居士**

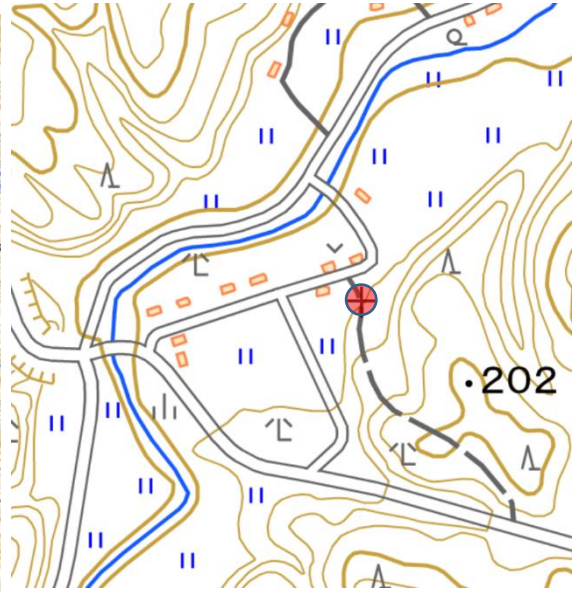
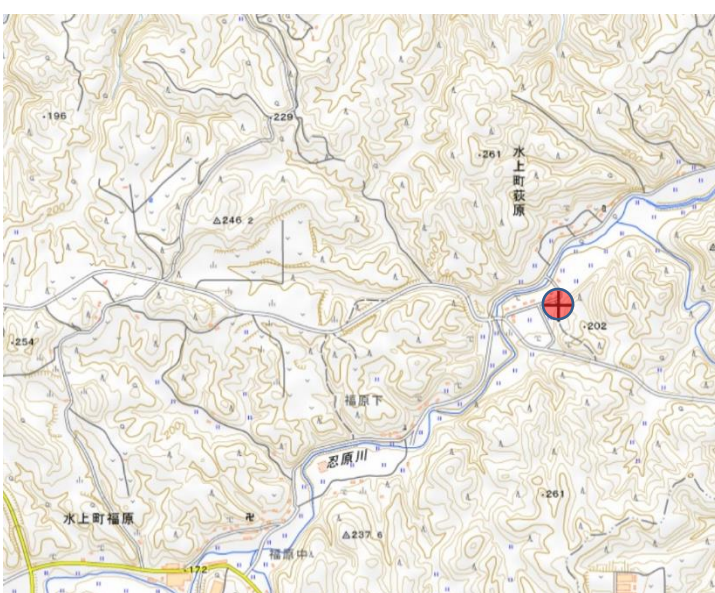
所在地 大田市水上町荻原 元本宗寺入口
 北緯 35° 06' 17.91" / 東経 132° 29' 09.72"



碑石 幅 33 / 奥行 26
 台石1段目 幅 58 / 奥行 50
 台石2段目 幅 82 / 奥行 73
 台座 幅 138 / 奥行 153 (コンクリート)

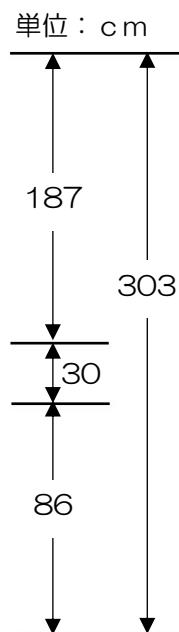
【調査の経過】
 水上町荻原集落の家が立ち並んだ道の道路向いに以前本宗寺という寺があり、その入口に立っている。石碑の後ろに崩れた旧碑が積まれており、「癸巳」の文字が見えるので、元の碑も干支を間違えていたようだ。
 2012年10月の調査時には5段の台石があり、石積みみの3段目以下が崩れかけていた。その後現在の形に修復された。碑石と1段目の台石が昭和33年製で2段目以降は以前のもののように見える。2018年の島根県西部地震で傾いたため、地元有志が修復。2段目の途中からコンクリートで補強された。前の市道には「荻原千軒」の説明板があり、往時の賑わいをしのぶことができる。
 (調査日 2020年5月15日)

【建立年】 昭和33年 (1958) 再建
 【建立者】 荻原村中
 【碑石前面】 泰雲院義岳良忠居士
 【碑石右面】 昭和三十三年八月再建
 【碑石左面】 享保十八癸巳歳五月廿六日
 【その他】 なし



【51】大田市祖式町下町 円福寺 (宮本 大49/ロータリー54) **井戸正朋公碑**

所在地 大田市祖式町下町 円福寺境内 (山門の左)
 北緯 35° 04' 64.95" / 東経 132° 27' 05.39"



碑石最大幅 123 / 奥行最大 42
 台石1段目 最大幅 167 / 奥行最大 80
 台石2段目 最上部幅 213 / 奥行 152
 (石組) 最下部幅 247 / 奥行 186

(調査日 2020年5月15日)

井戸公の名前は「正朋」を採用している。

〔調査の経過〕
 総高さ3段を超す大きな碑。2段目の台石は3段の石積みで反りもあり城壁のよう。当時の島根県知事が揮毫しているが、昭和8年再建という情報しかなく、歴史のある円福寺に立っているということもあって、再建の経過が興味深い。

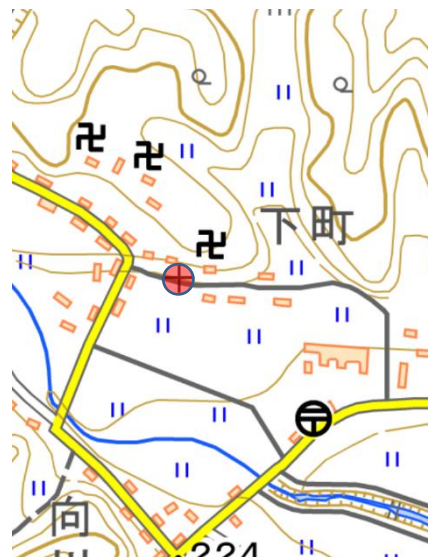
〔その他〕刻字なし

〔碑石裏面〕昭和八年九月四日再建

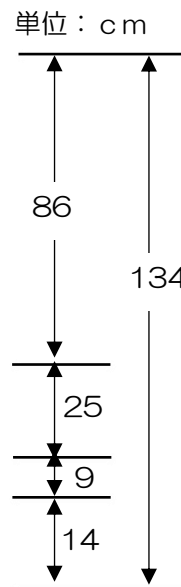
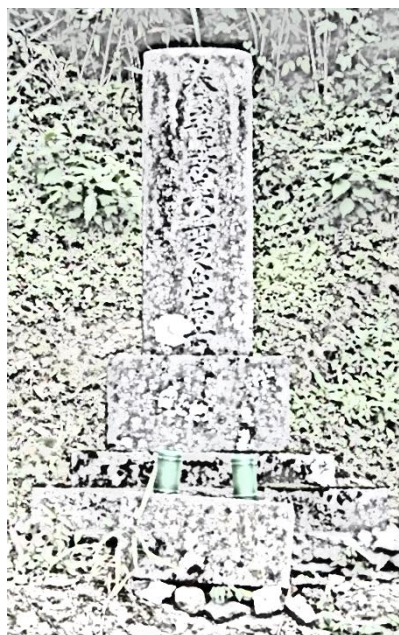
〔碑石前面〕井戸正朋公碑 (左に「島根懸知事正五位勲四等福邑正樹書」)

〔建立者〕不明

〔建立年〕昭和8年(1933)再建



所在地 大田市祖式町下瀬戸 県道 31 号沿い瀬戸橋バス停向い
北緯 35° 03' 52.75" / 東経 132° 27' 45.44"



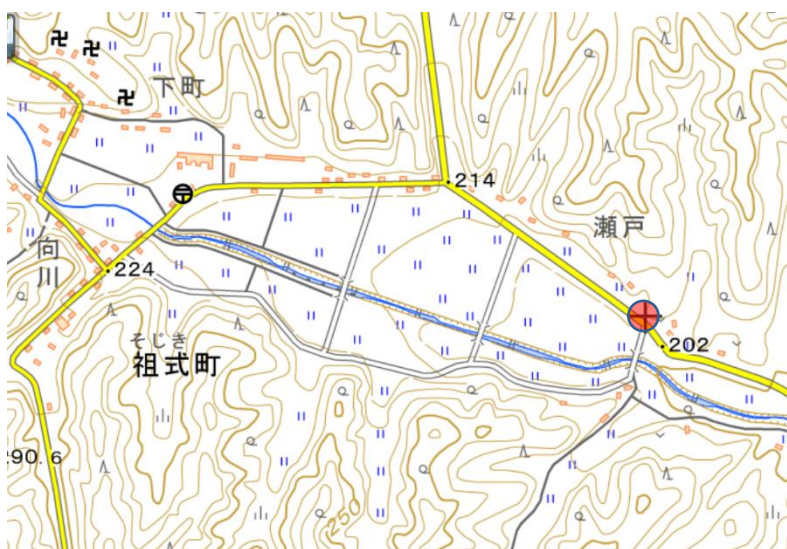
碑石幅 29 / 奥行 25
台石 1 段目 幅 47 / 奥行 47
台石 2 段目 幅 65.5 / 奥行 65
台石 3 段目 幅 86 / 奥行 80

〔建立年〕 嘉永 7 年（1854）
〔建立者〕 瀬戸本江総連中
〔碑石前面〕 泰雲院殿義岳良忠居士
〔碑石右面〕 享保十八癸丑年 / 五月二十六日
〔碑石左面〕 井戸平左衛門正明
〔碑石裏面〕 嘉永七寅年
〔一段目台石前面〕 庄屋 / 文治郎 / 瀬戸本江惣連中
〔一段目台石右面〕 石工 / 市右エ門

〔調査の経過〕
県道のすぐ上の、法面に立っている。保存状態もよく、傷みは少ない。
碑石裏面に建立年が彫ってあるのが珍しい。裏面は削らないままでも何も文字が彫ってないものが多い。

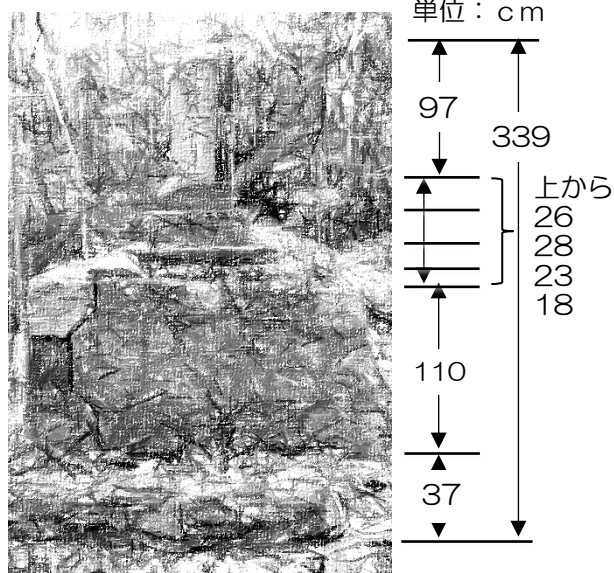
祖式町には 7 基あるが、そのうち 3 基（瀬戸、猪ノ目、大原）が嘉永 7 年の建立。山中が安政 4 年（1857）で、4 年間に 4 基が相次いで建立されている。南山の碑は建立年不明だが、同時期のものかもしれない。

（調査日 2020 年 5 月 8 日）
（写真 2012 年 10 月 30 日）



【53】大田市祖式町山中 (宮本 大 51/マケ- 56) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市祖式町山中 市道に立つ「オオイエカン 293 次 1」の電柱の右を入れて約 100^{メートル}
 北緯 35° 03' 04.01" / 東経 132° 26' 23.40"

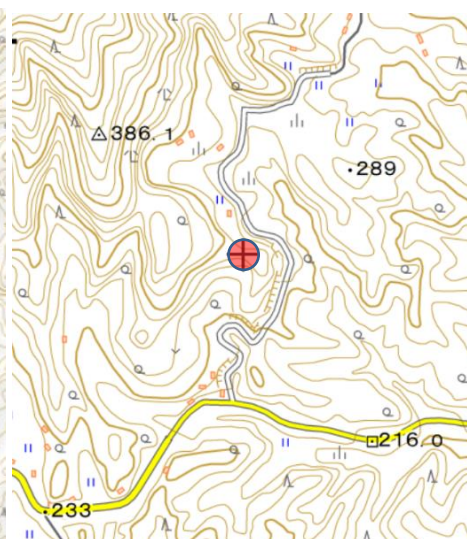


碑石幅 33 / 奥行 33
 台石 1 段目幅 53 / 奥行 53
 台石 2 段目幅 76 / 奥行 77
 台石 3 段目幅 111 / 奥行 111
 台石 4 段目幅 151 / 奥行 168
 台石 5 段目幅 210 / 奥行 220
 台石 6 段目幅 305 / 奥行推定 330

【調査の経過】
 祖式まちづくりセンターで場所を聞いて現地へ。市道から先は昔は人の往来があつたというが、現在はけもの道のようになつており、だれかが通れるほどにはしてゐるようだ。約 100 歩行くと広場になり、右側に大きな石碑が現れる。周囲の草や竹を整理して調査した。

【建立年】安政 4 年 (1857)
 【建立者】祖式村上組中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八年癸丑五月廿六日
 【碑石左面】井戸平左衛門正明君
 【二段目台石前面】施主 / 祖式村上組 / 中
 【二段目台石左面】庄屋 / 文四郎 / 頭百姓 / 助五郎 / 同 / 卯一郎

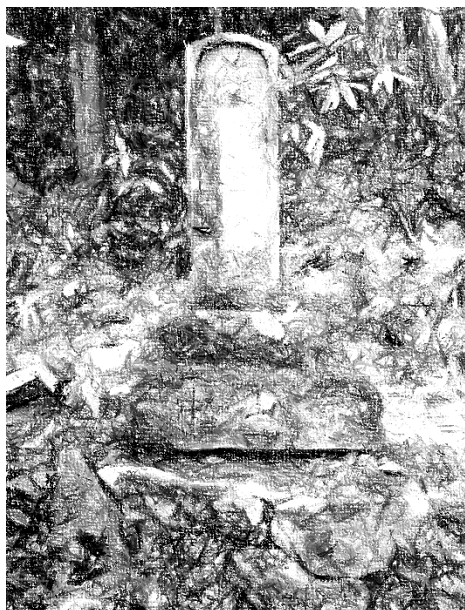
(調査日 2020 年 4 月 24 日)



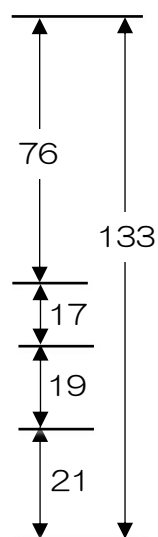
【54】大田市祖式町南山 (宮本 大 55/ㄇㄉㄉ-60) 井明府……碑

所在地 大田市祖式町南山 県道 46 号南山入口から約 2^キ。笠岡隆氏宅先の道路右側赤いポストから約 100^ミ先を左側の山に少し上った場所。崖っぷちに立つ。

北緯 35° 02' 10.18" / 東経 132° 27' 12.40"



単位：cm



碑石幅 33 / 奥行 33
 台石 1 段目幅 53 / 奥行 53
 台石 2 段目幅 76 / 奥行 77
 台石 3 段目幅 111 / 奥行 111

(調査日 2020年5月5日)

「調査の経過」
 この場所は地域の方の墓地の入口にあたる場所だったが、現在では笠岡氏の墓地も自宅の横に建てられていることから、もう使われていないのかもしれない。以前は道らしい坂道があったが、現在では上がるのも難しくなっている。石碑の前は崖になっている。付近の崖も崩れている。石碑の正面から崖まで約 1 メートルなので、ここも崩れるかもしれない。石碑はそれほど傷みが激しいわけではないが、碑銘の部分だけがそぎ取ったように剥落していて読めなくなっている。後ろに石灯籠の屋根だけが残っている。

「調査の経過」

「碑石左面」井戸平左衛門正明

「台石二段目前面」南山中

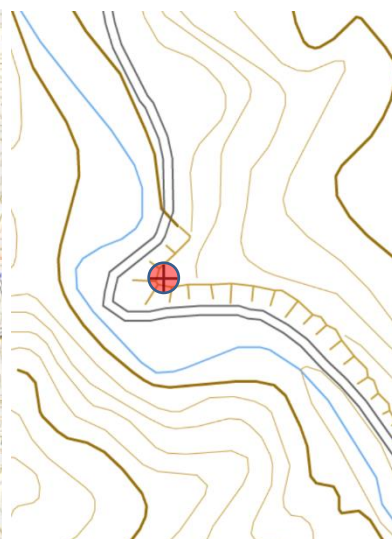
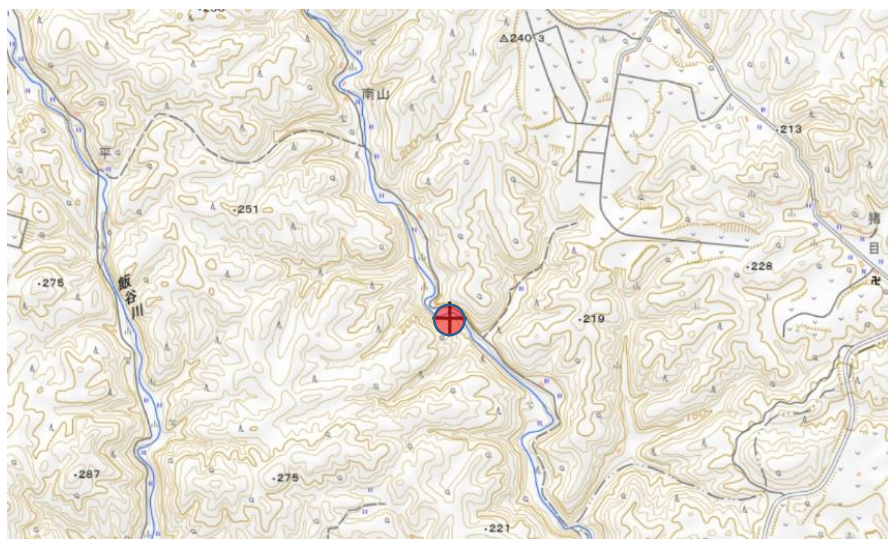
「台石二段目左面」世話人 / 甚三郎 / 文右エ門 / 兼市良

「碑石右面」享保十八癸丑五月廿六日

宮本調査による

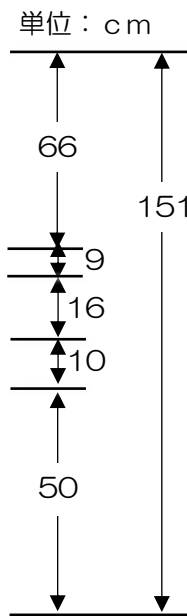
「碑石前面」えぐるように剥落して読めない (「井明府……碑」は宮本調査による)

【建立年】不明
 【建立者】南山中



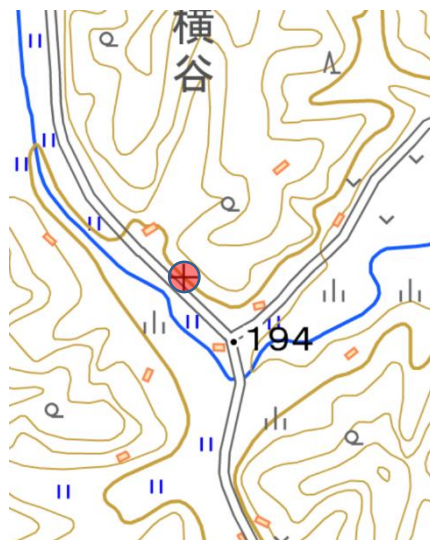
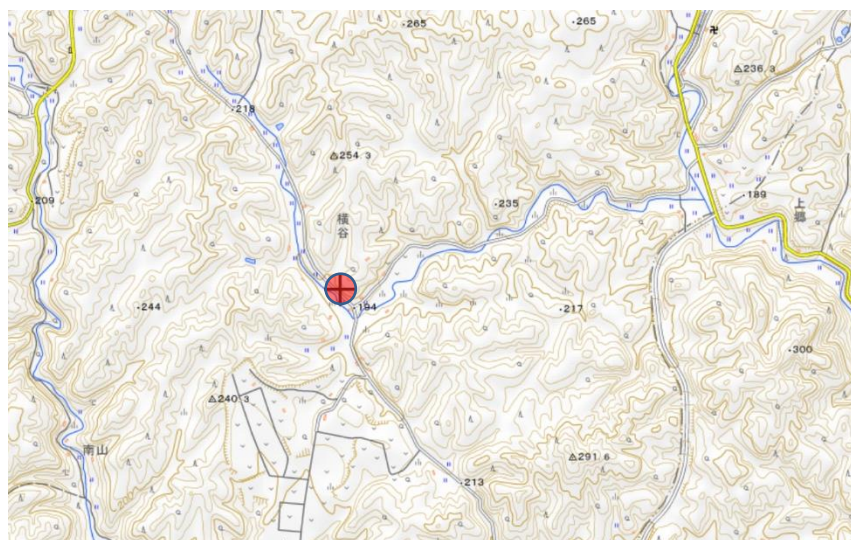
【55】大田市祖式町横谷 (宮本 大52/マケリ-57) 井明府口碑

所在地 大田市祖式町横谷 市道の北側の高台
 北緯35°02'54.40" / 東経132°27'41.55"



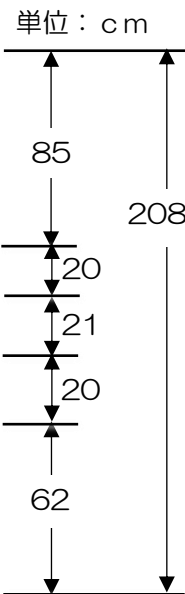
碑石幅 38 / 奥行 19
 台石1段目幅 42.5 / 奥行 34
 台石2段目幅 49 / 奥行 41.5
 台石3段目幅 61 / 奥行 62
 台石4段目幅 123 / 不明(石組み)

【建立年】明治44年(1911) 再建
 【建立者】横谷中
 【碑石前面】井明府……(宮本調査「井明府：碑」)
 【碑石右面】享保十八年五月廿六日 / 井戸平左衛門正明
 【碑石左面】明治四十四年八月吉日再建
 【二段目台石前面】横谷中
 【二段目台石右前面】世話人 / 森田善次郎
 【二段目台石左面】福光石工 / 山中清一
 【調査の経過】市道大原横谷線の横谷側三差路の西約90m。猪ノ目の碑と同じ道路沿い。拡幅された道路の約3mの高さの擁壁の上の平らな面にこの石碑だけがある。毎年盆前には地域の皆さんが草刈りされるが、5月にはかなり草が生い茂っている。ほかの面の文字は鮮明に残っているが、碑石の正面の文字だけがえぐれたように剥離していて、「井明府」しか読めない。小ぶりの石碑だが台石は4段積み、4段目は山中、猪ノ目同様石積みの立派な造りだ。
 (調査日2020年5月8日)



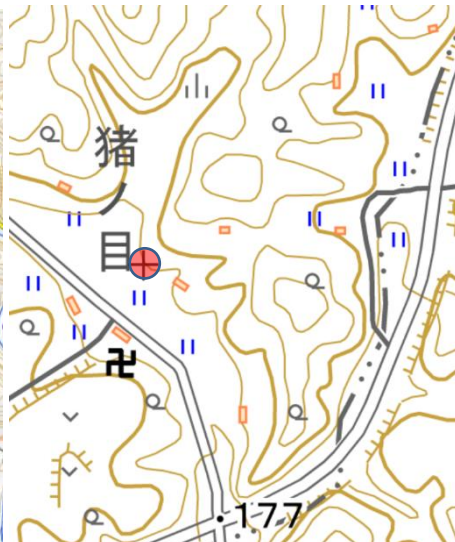
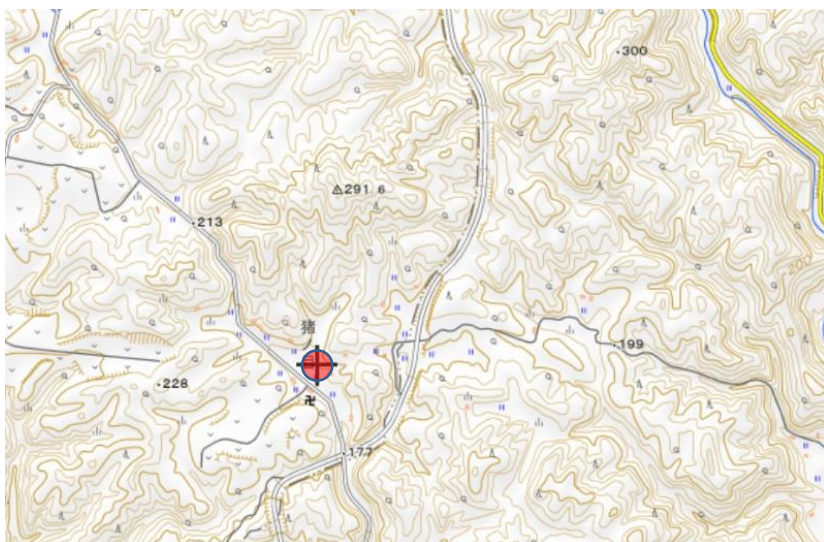
所在地 大田市祖式町猪ノ目 市道の北側の高台

北緯 35° 02' 15.97" / 東経 132° 28' 15.21"



碑石幅 32 / 奥行 25
 台石1段目幅 49 / 奥行 49
 台石2段目幅 67 / 奥行 67
 台石3段目幅 91 / 奥行 91
 台石4段目幅 127 / 127(石組み)

【建立年】嘉永7年(1854)
 【建立者】井之目谷内
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八年五月二十六日逝去
 【碑石左面】井戸平左衛門正明
 【一段目台石前面】祖式村
 【二段目台石前面】井之目谷内
 【二段目台石右面】嘉永七歳/甲寅八月/立之/庄屋/政左衛門
 【二段目台石左面】世話人/鍛冶屋/兵衛/福光/石工利兵エ/作
 【調査の経過】
 横谷の石碑の前の市道をずっと東に進んだ場所の左手、田を一枚挟んだ高台の平地に立つ。川本への農道から横谷方面に進むと約250mの地点。道路から家は見えないが林の中に民家があり(高橋氏宅)その家上がる道から左に行くくと下に雑草除けの黒いシートが石碑の場所まで敷いてある。現在は高橋さんが手入れをしていると思われる。台石を4段も積み、しかも4段目は3段の石組の立派な姿。崩れかけていて、ところどころセメントで補修してある。
 (調査日 2020年5月7日)

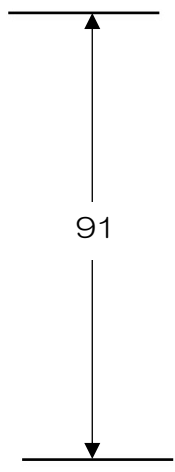


【57】大田市祖式町大原 (宮本 大50/ロータリー55) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市祖式町大原 市道大原横谷線の大原側の橋のたもと
 北緯35° 03' 09.55" / 東経132° 28' 34.16"



単位：cm



碑石最大幅 52 / 奥行最大 33

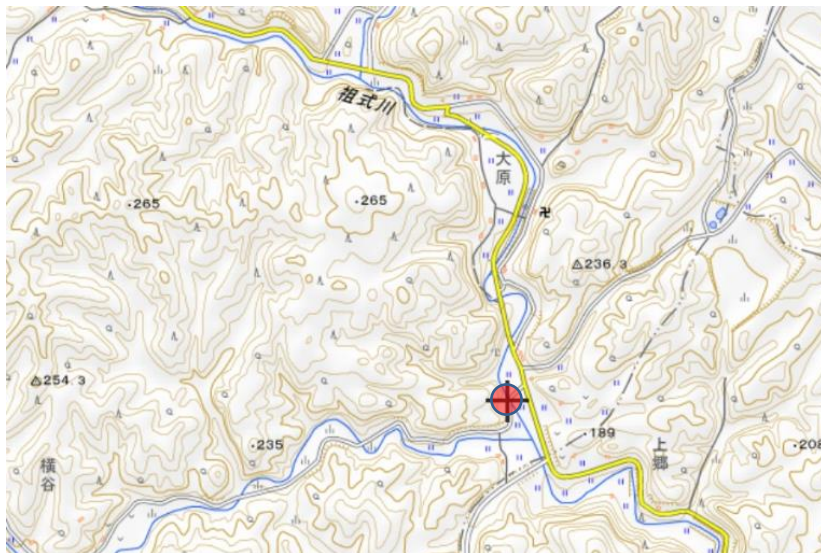
【建立年】嘉永7年(1854)
 【建立者】當組中

【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士(右に「享保十八癸丑五月廿六日」左に「井戸平左衛門正明」)
 【碑石左面】嘉永七甲寅三月廿五日建之／當組中／庄屋政左衛門／頭百姓万平／在極平

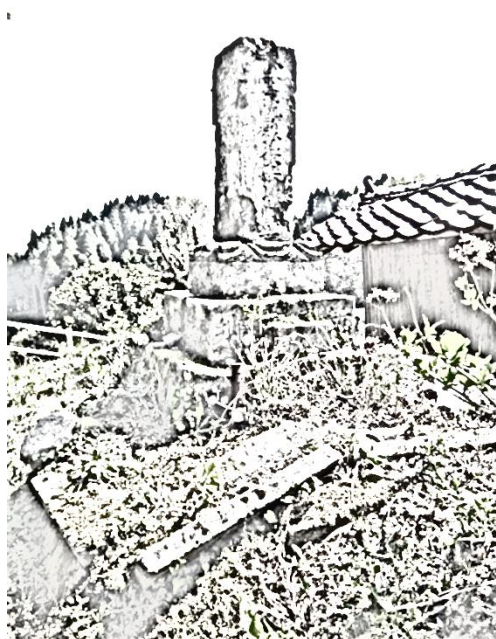
【調査の経過】

県道31号から川本へ抜ける農道に入るすぐ手前に市道大原横谷線があり、そこを入れてすぐにある橋のたもとが広くなっており、がけ崩れを防ぐ吹付面をえぐるようにして、地蔵と並んで井戸公碑が立つ。小さな石碑で、文字も浅く、素人が彫ったような感じだが、石が硬いため傷みはない。碑の前には花立てが1対あり、野の花が供えられ、いつ行っても水のペットボトルが置いてある。近くの人が世話をしているのだろう。

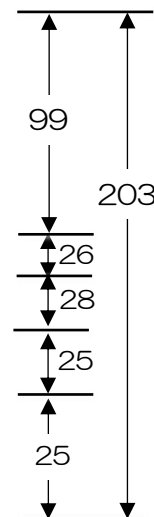
(調査日2020年5月7日)
 (写真2012年10月31日)



所在地 大田市大代町新屋本郷 大葉成宏氏宅横 地藏堂後ろ
 北緯35° 02' 28.37" / 東経132° 24' 53.18



単位：cm



碑石 幅 31 / 奥行 31
 台石1段目 幅 52 / 奥行 52
 台石2段目 幅 73 / 奥行 73
 台石3段目 幅 103 / 奥行 103
 台石4段目 幅 200 / 奥行 200 (崩落)

【建立年】不明
 【建立者】新屋本郷
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八癸丑年 / 五月二十六日
 【碑石左面】井戸平左衛門正明君
 【二段目台石正面】新屋本郷
 【二段目台石前面】頭百姓 / 源四郎 / 庄屋 / 彦右衛門
 【二段目台石左面】世話人 / 好三郎 / 大三郎 / 周蔵

〔調査の経過〕
 大代町の佐藤まちづくりセンター長の案内による。大葉成宏氏宅横の高手に地藏堂があり、その後ろに立つ。近くには墓所も2カ所あり、合わせてきれいに草刈りがしてある。石碑は福光石でかなり剥落が進んでいる。4段目の台石は崩落して構成石が周囲に散乱している。

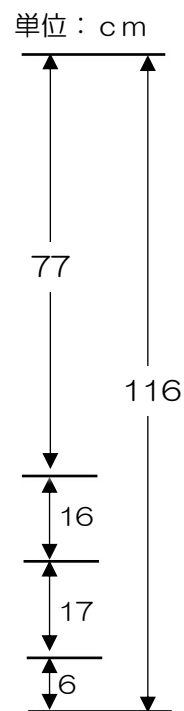
大代町の井戸公碑は建立年代が彫っていないものが多く、この石碑もそうだった。また台石の建立者の文字が大きいものが多いが、この石碑も大きな文字で「新屋本郷」と深々と彫ってある。集落ごとに競うように建てたのだろう。

(調査日2020年4月30日)



【59】大田市大代町新屋山田 バス停前 (宮本 62/ロータリー-65) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市大代町新屋山田 県道46号沿いバス停前 (大江高山山田側登山口)
 北緯35° 02' 33.66" / 東経132° 25' 20.13

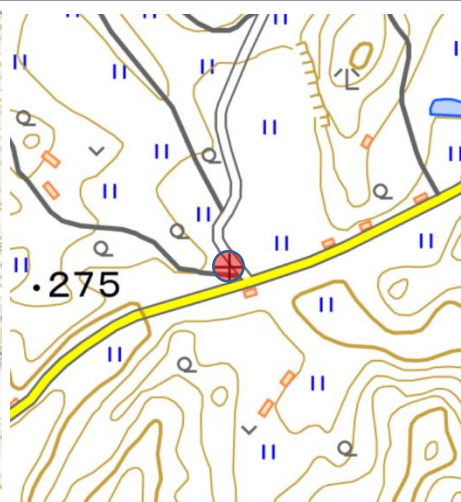
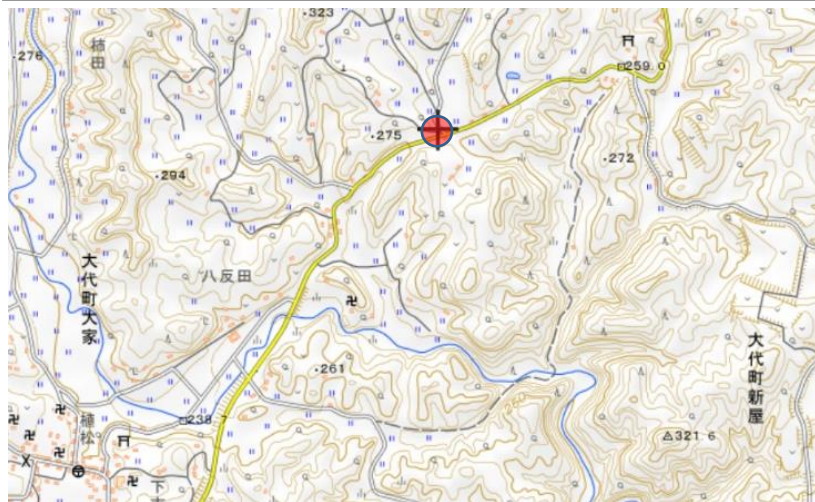


碑石 幅24/奥行き24
 台石1段目 幅40/奥行40
 台石2段目 幅49/奥行49
 台石3段目 幅73/奥行75 (下が埋まっている)

【調査の経過】
 以前は県道の南側にあり、樹木の影で湿気が多そうな場所だった。現在は地藏堂などとともに北側に移設され、乾燥した明るい場所になった。以前からの赤茶色の苔が残っており、碑石の傷みも激しく、読めない文字がある。台石は以前は3段目が厚み18cmで、その下に厚み25cmの4段目もあった。大代町のほかの碑と比べると小ぶりだが、「知雲」という僧侶と思われる名前の人が立てている。地域の人は後追いのように、隣に元治2年(1865)灯籠を立て「當組若連中」(世話人/シンヤ政蔵/畑名浅吉/太田ヤ源兵エ)と彫った。灯籠の左面には「山田寺」の文字もあるので知雲はその寺の住職だったかもしれない。
 (調査日2020年5月7日)

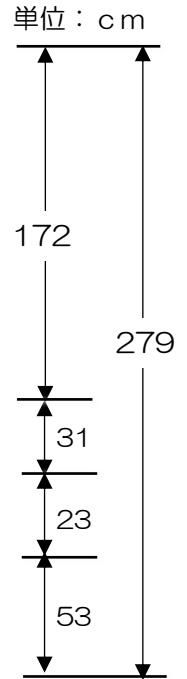
【建立年】天保15年(1844)
 【建立者】知雲

【碑石前面】泰雲院殿……(剥落して読めないが宮本資料では「泰雲院殿義岳良忠大居士」)
 【碑石左面】井戸平左衛門殿正明 / 天保十五辰七月〇日知雲立之
 【碑石右・裏面】なし
 【台石】なし



【60】大田市大代町新屋飯谷 浄願寺 (宮本 大 61/㊦-㊦-66) 井戸明君碑

所在地 大田市大代町新屋飯谷 浄願寺境内 (大江高山飯谷側登山口)
 北緯 35° 02' 55.43" / 東経 132° 25' 49.60



碑石 最大幅 77 / 奥行き最大 43
 台石1段目 幅 115 / 奥行 85
 台石2段目 幅 130 / 奥行 144
 台石3段目 幅 228 / 奥行 180 (コンクリート製)

【建立年】不明
 【建立者】新屋村飯谷組中

「碑石前面」井戸明君碑(右に「享保十八年」左に「癸丑五月廿六日」)

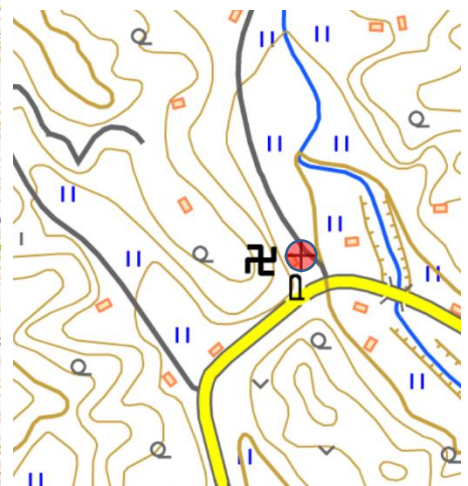
「碑石左右裏面」なし
 「台石一段目前面」新屋村 / 飯谷組中 / 庄屋 / 助十郎 / 同見習 / 吉五郎 / 頭百姓 / 種右エ門 / 百姓代 / 常三郎

【調査の経過】

寺の前の県道46号が拡幅になったが寺の境内には影響がなく、石碑もそのまま。ただ、寺には人の気配がない。この碑のために造られたコンクリート製の広い台に乗る(台石3段目とした)、大きな自然石の堂々たるもの。白っぽい苔は生えているが傷みはなく、文字もよく読める。専用の石の花立て(これは時代が新しそう)といい、「飯谷組中」の勢いと心意気が感じられる石碑だ。

大代町内の石碑は建立年が彫つてないものが多く、これもそうで、時代がわからないのが残念だ。

(調査日 2020年5月7日)



【61】大田市大代町新屋右原 (宮本 なし/㊦列-97) 泰……

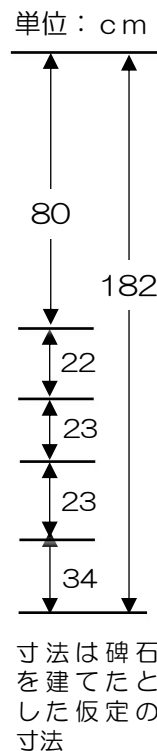
所在地 大田市大代町新屋右原 中垣土夫氏宅西側道路右手の山際
 北緯 35° 01' 22.86" / 東経 132° 25' 54.71



最上部に乗せてある石碑の一部。「泰」と読める。



碑石 幅 28 / 奥行き 25
 台石1段目 幅 47 / 奥行き 47
 台石2段目 幅 65 / 奥行き 65
 台石3段目 幅 95 / 奥行き 不明
 台石4段目 幅 133 / 奥行き 不明 (後ろの山崩れ)

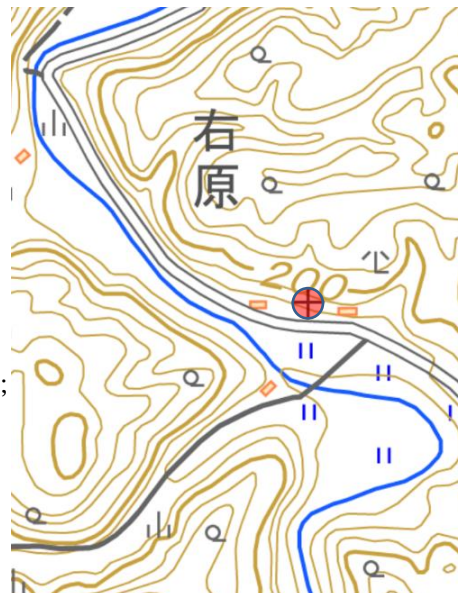
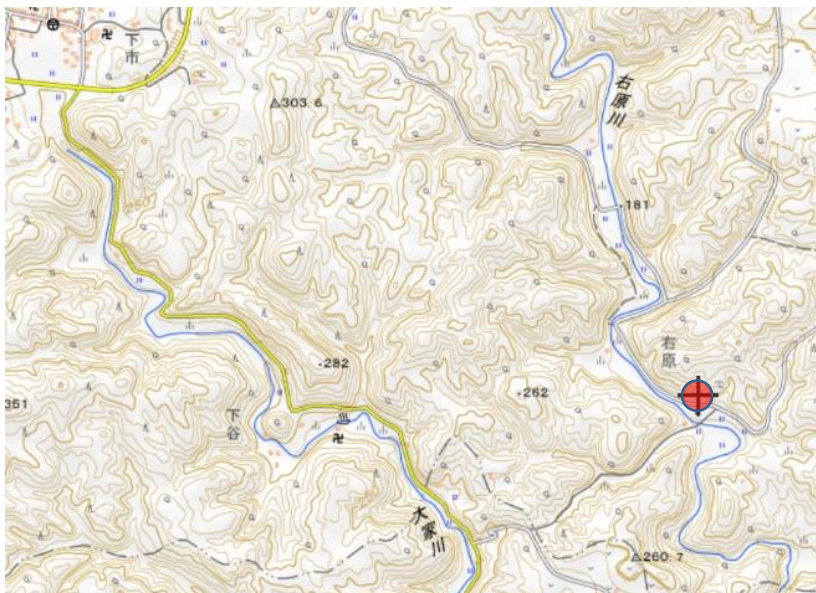


〔調査の経過〕
 大代町の佐藤まちづくりセンター長の案内による。奇妙な形をしているが、佐藤さんによると道路工事で移動させたとき碑石が折れたため、台石の上に寝かせたものだという。碑石の上の楕円形の石は28×20センチあり、そこに大きく「泰」の字が読めるので、折れた碑石の上部だろう。とすると碑名は「泰雲院……」で、泰の字がかなり大きいので、多くの文字はなかっただろう。台石の「右原組」の文字も大きくて深い。

左の石柱も同時に建てられたと思われる、正面に「明治廿六年十月廿…」右側に「世話人／和田北良／渡利房…／松下和…／伊崎…」とある。

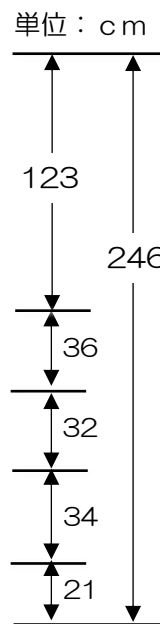
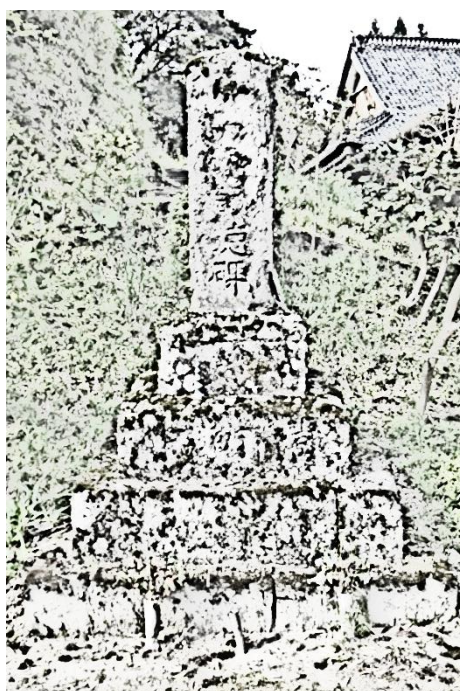
(調査日 2020年4月30日)

〔建立年〕 明治26年 (1893)
 〔建立者〕 右原組
 〔碑石前面〕 泰……
 〔碑石右面〕 井戸……
 〔碑石左面〕 享保十八癸丑… / 五月廿……
 〔二段目台石正面〕 右原組
 〔その他〕 なし (と思われる)



【62】大田市大代町大家植松 正法寺 (宮本 大 60/□-列-62) **井戸君報徳碑**

所在地 大田市大代町大家植松 正法寺山門左
 北緯35° 02' 02.19" / 東経132° 24' 29.47



碑石 幅 40 / 奥行き 39
 台石1段目 幅 70 / 奥行 68
 台石2段目 幅 104 / 奥行 107
 台石3段目 幅 135 / 奥行 144
 台石4段目 幅 180 / 奥行 180(推計)

【建立年】安政3年(1856)
 【建立者】當町中

〔碑石前面〕□□□報徳碑(各種資料により「井戸君」とした)
 〔碑石左右面〕三百二十十字の碑文(次葉に掲載)

〔二段目台石前面〕當町中
 〔二段目台石左面〕寄□ / 助二郎 / 庄屋 / 喜兵衛 / 頭百姓 / 善右衛門 / 世話人 / 惣左衛門 / 徳五郎 / 武平太 / 繁平 / 孫一郎 / 藤五郎

〔調査の経過〕
 大代の町並みに最も近い場所にある正法寺の山門をくぐって左側にある。碑石は幅40センチもあり、4段の台石があつて堂々たる石碑だ。碑石左右面に320字という長さの碑文があり、以前大代町の熊谷正範氏が読んでいるので次葉で紹介する。2段目の台石に「當町中」とあり、ほかの碑の「組中」とは違つて宿場町として栄えていた大代の「町」のプライドを示しているように思える。碑の前には線香立てと陶器製の1対の花立てがあり、調査時にも花が供えられていた。台石に盃状穴あり。

(調査日2020年5月5日)





碑文が彫られている碑石の左面 (上下)

【碑文】熊谷正範著「大家から大田市へ」(昭和57年同氏発行)より

臨百里之地而受生民之寄有一夫不得所者罪將就歸宣 郡宰□難平得父也如□井戸君諱政明乃其因興君通称平左衛門享保中来石見為代官時管下新承凋荒民産未立 君下□洲口謀求齊民之方属耆老而諮詢 或曰 君不見夫甘藷 類芋而沙種出於琉伝於薩故俗又呼曰薩摩芋其味甘温可以民食矣君聞之大喜乃請種於薩以其宜沙地先令浴海民戸□之種則繁行利遂遍於郡内被其澤者不□君之名而秘為芋代官云□者大家本郷人某来請余曰芋代官卒已者五十余年矣 部諸村莫不樹碑以報其德而我郷独未有一石之以相表也某等□夏之願子幸文之具專將□□示之後矣嗚呼君之逝□手其已□焉而其德澤之 玉今尚能使人追感恩慕如此任救民之□者其真可不以鑿於斯也乎哉万余難 □惡得□樂而文之

安政三年歳在丙辰出雲姉展謹

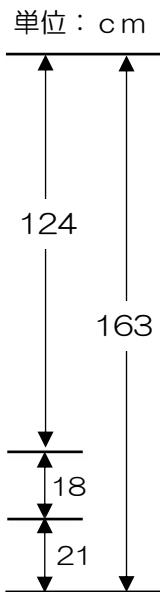
【訳文】石村勝郎著「いも神さま 井戸平左衛門 石見銀山代官」より／平成6年石見銀山資料館発行)

碑文の作者(出雲の人らしい)のところへ、大家本郷の有志が訪ねて来て、いも代官が亡くなって五十余年になる。他の村では、その徳に報いて碑を立てているが、ひとり、わが村にない、これは悲しいことであり、お願いするから碑文を書いてほしい、後世に志を伝えたいといつて来た。

ああ君が逝って既に遠いが徳沢はいまも人を追慕させているではないか。救民の責に任ずる者は、このようであればならない。才能劣る自分だが、これを文に表わさざるを得ない。

【63】大田市大代町大家四日市 西臨寺先 (宮本 大 62/ㄇ-ㄌ-67) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市大代町大家四日市 西臨寺先四日市バス停付近の三差路
 北緯 35° 02' 07.58" / 東経 132° 24' 20.11



碑石 最大幅 54 / 奥行き最大 34
 台石1段目 幅 67 / 奥行き 52
 台石2段目 最大幅 128 / 奥行き最大 90

【建立年】不明
 【建立者】當組中

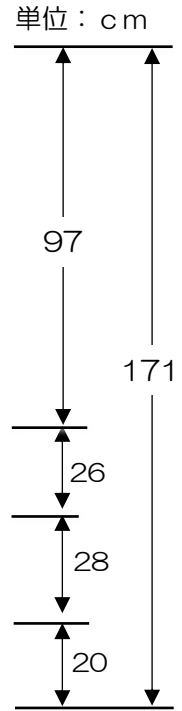
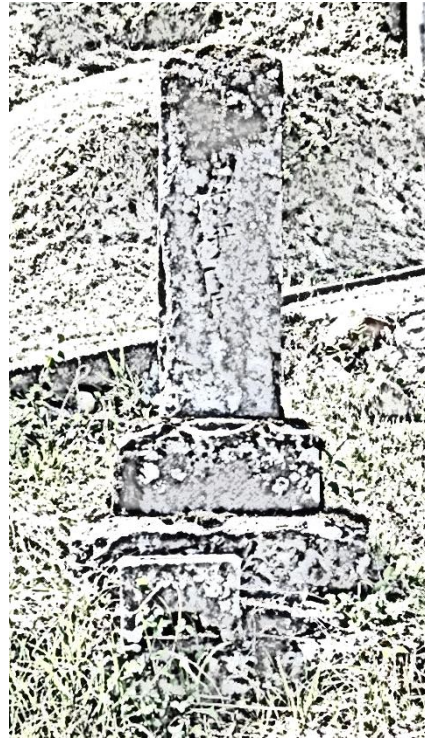
〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士 (下に蓮の花)
 〔碑石左面〕享保十八癸丑年五月二十六日 / 井戸平左衛門
 〔一段目台石前面〕當組中
 〔二段目台石左面〕□□ / □話人 / 庄屋 / 喜右衛門
 〔一段目台石右面〕福光石工 / 山中九平エ / 市□ / 山屋新助

〔調査の経過〕
 大代町の正法寺を少し西に進むと西臨寺があり、その先の三差路に地藏堂と並んで立つ。2段目の台石の下には地藏堂と共通のコンクリートの基礎がある。碑の後ろは休耕田。碑の周囲はきれいに草が刈ってあり気持ちがいい。
 一段目の台石には数個の盃状穴がある。
 この碑は日本古代社会史研究家で元日本地名研究所長の故関和彦先生も訪れており、「郷土石見」107号で紹介している。

(調査日 2020年5月5日)



所在地 大田市大代町大家八反田 元小学校の西 市道沿いの法面
 北緯 35° 02' 08.76" / 東経 132° 24' 44.71"



碑石 幅 31 / 奥行き 30
 台石 1 段目 幅 53 / 奥行き 52
 台石 2 段目 幅 74 / 奥行き 77
 台石 3 段目 幅 106 / 奥行き不明 (斜面埋没)

【建立年】不明
 【建立者】八反田組

【碑石前面】……殿義岳良……
 【碑石右面】享保十八癸丑年 / 五月二十六日
 【碑石左面】井戸平左衛門正明
 【二段目台石前面】八反田組
 【二段目台石右面】福光石 / 山中秀 / 下 / 山屋新
 【二段目台石左面】庄屋 / 喜三衛門 / 百姓代 / 大 / 衛 / 世話人 / 殿兵 / 喜平 / 常三郎

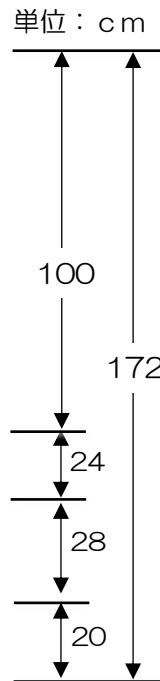
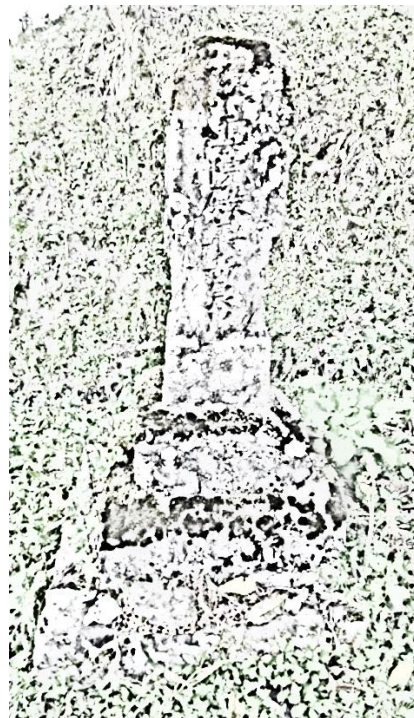
【調査の経過】
 旧県道から大代小学校の西を右折して市道に入ると山側の法面に立っている。規模といい造りといい、柿田の石碑とよく似ている。石も同じものようで、当たりのいい場所にあるにもかかわらず、傷み方までよく似ている。宮本調査では「泰雲院殿義」まで読めたが、現在は判読してやっと「殿義岳良」が読める。石の線香立てがあり、周囲はよく草が刈ってある (すぐ近くに2軒の家あり)。
 台石に盃状穴あり。

(調査日 2020年5月7日)



【65】大田市大代町大家柿田 (宮本 大 56/㍉-㍊-61) 泰雲院殿義岳良忠……

所在地 大田市大代町大家柿田 市道沿い地藏堂上
 北緯 35° 02' 27.26" / 東経 132° 24' 27.27



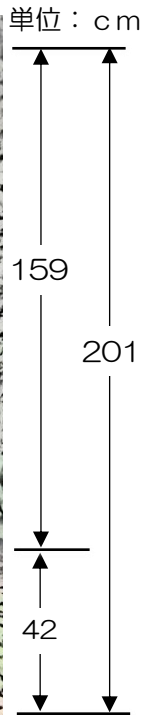
碑石 幅 30.5 / 奥行き 31
 台石1段目 幅 53 / 奥行 53
 台石2段目 幅 73 / 奥行 74
 台石3段目 幅 110 / 奥行 105

〔建立年〕 不明
 〔建立者〕 柿田組
 〔碑石前面〕 泰雲院殿義岳良忠：
 ……
 〔碑石右面〕 享保十八癸…… / 五月……
 〔碑石左面〕 井戸平……
 〔二段目台石左面〕 當役 / 庄屋 / 新右衛門 / 九屋仙助
 〔二段目台石前面〕 柿田組
 〔二段目台石右面〕 福光石工 / 谷中秀平工
 〔調査の経過〕
 柿田集落の市道に坂を上がる三差路があり、その付け根の地藏堂の上の丘に立つ。雪が深かった当時の自然条件のためか、大代町の福光石製の石碑は傷みが激しく、この碑もかなり崩落が進んでやせており、石碑の下部はセメントで補修してある。
 (調査日 2020年5月1日)



【66】大田市大代町大家川上 (宮本 大 58/㊦-㊦-64) 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市大代町大家川上 鳴ヶ鼻橋先の市道沿い
 北緯 35° 02' 56.67" / 東経 132° 24' 30.30 (国土地理院)



碑石 最大幅 83 / 奥行き最大 30
 台石 最大幅 133 / 奥行き最大 110

【調査の経過】
 川上集落に入って川に沿ってま
 つすぐ進むと左手の山側に高さ
 約1㊦、幅約6㊦の石垣があり、
 地藏堂、軍人碑とともに建って
 いる。大き目の1段の台石の上
 にこれも大きめで幅広の自然石
 が乗り、気持ちのいい、雄大な眺
 めだ。碑の前の花立てには季節
 の野の花が供えてあり、調査日
 には碑の横に咲くシヤガの花が
 供えてあった。建立年がないの
 が残念だ。

【建立年】不明
 【建立者】川上連中

【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大
 居士
 【碑石右面】享保十八癸丑皆五月
 廿六日 / 井戸平左衛門尉正明君
 【碑石左面】井戸平左衛門正明君
 / 祀奠碑
 【台石】なし

(調査日 2020年5月1日
 写真は 2012年10月31日)

